

平成 21 年 9 月 28 日

関係各位

ルール・審判委員会  
委員長 長谷川敦司

タイムアウト要求に関するルール解釈の変更について  
(適用 2009 年 10 月 1 日～)

ルール条文

競技ルール 2.4.4.2.3

“タイムアウト”の要求はゲーム中のラリーとラリーの間のみにでき、その際手で“T”を示すものとする。

解釈の変更点(新)

タイムアウト終了後、まだタイムアウトを要求していない選手又は組が続けてタイムアウトを希望する場合、一箇所のラリーとラリーとの間に連続して取得することができる。  
(最大2分以内のタイムアウトが認められることになった。)

従来からの解釈(旧)

タイムアウト終了後、まだタイムアウトを要求していない選手又は組が続けてタイムアウトを希望する場合、タイムアウトの要求はラリーとラリーの間のみ認められているため、一箇所のラリーとラリーとの間にタイムアウトを連続して取得することは出来ない。  
(次のラリーを行わなければ、新たにタイムアウトは要求できなかった。)

解釈変更に至った経緯

国際卓球連盟(ITTF)の委員間で「一箇所のラリーとラリーの間にタイムアウトを連続して取得出来るか否か。」が議論されたが意見はほぼ2分されていた。本年開催の世界選手権横浜大会期間中 ITTF ルール委員会(Rule)及びレフェリー・審判委員会(URC)で確認と議論が行われ ITTF としての解釈統一が行われたため、今回の通知となった。

「ゲーム中のラリーとラリーの間」を「2本のラリー間」と狭義に解釈していたが、「ゲーム開始時のラリーからゲーム終了時のラリーの間」と広義な解釈をすることに統一された。「マッチ開始前の練習後やゲーム間の休憩後」については従来通りタイムアウトの取得は出来ない。

以上

(この解釈の変更は、平成 21 年 9 月 19 日の日本卓球協会理事会に提案、承認され、各加盟団体へお知らせした後 10 月 1 日から適用することとなりました。)